

# 有機農業の証明

小川町有機農業フォーラム2022 2月20日(日) 13:30~16:30 ZOOMオンライン

## 小川町有機農業フォーラム2022開催にあたって

1971年、「日本有機農業研究会」が誕生した年。小川町・下里の地で金子美登さんが有機農業の種を蒔き始めました。それから半世紀、小川町では個性あふれる50軒を超える有機農家達が、「顔と顔の見える関係」を大切に、野菜とお米の販売を通し「手と手のつながる絆」をコツコツと育ててきました。そして今、農水省は「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに有機農業の耕作面積の割合を全国

で25%(100万ha)に拡大する目標を掲げています。このフォーラムでは「認証」をテーマに、小川町・有機農業の辿ってきた半世紀の道を振り返ると同時に、未来の道標を探ります。

(JAS認証機関代表 + PGS研究者 + 有機農家にしてJAS検査員) × (小川町・有機農家のパイオニア3名) = 小川町の有機農業 その魅力をたっぷり証明します!

## 当日の流れ(予定)

- 開会の挨拶 金子美登氏(霜里農場)  
「小川町有機農業50周年に寄せて」
- 基調講演  
「第三者認証のメリット・デメリット」  
高橋勉氏(JONA理事長・有機JAS資材評価協議会代表理事)  
PGS(参加型保証システム)を考える  
経済学の捉え方とフィリピンにおける「先進的な」事例をふまえて  
中西徹氏(東京大学大学院総合文化研究科教授・国際社会科学専攻)  
「有機農業の現場から」  
江原浩昭氏(ガバレ農場・日本有機農業研究会理事・有機農業推進協会JAS検査員)
- 小川町の取り組みの紹介  
「オガワンの紹介と展望」 小川町 環境農林課
- パネルディスカッション「有機農業の証明」  
【登壇】 高橋勉氏/中西徹氏/江原浩昭氏  
田下隆一氏(風の丘ファーム)/河村岳志氏(河村農場)/大石正人大石農園
- 質疑応答
- 閉会の挨拶

## 基調講演者プロフィール



### 高橋勉氏

1967年、埼玉県川口市生まれ。1992年、前職で『地球サミット』を取材。それを機に、有機農家で研修を受ける。2000年、有機JAS制度のスタートを前にJONA事務局長として勤務開始。国内外の有機農場および加工場の検査に奔走する。2011年よりNPO法人 日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会 理事長、(一社)有機JAS資材評価協議会 代表理事。



### 中西徹氏

東京大学大学院経済学研究科博士課程修了(経済学博士)。2000年より東京大学大学院総合文化研究科教授(国際社会科学専攻)、開発経済学関係の著書に、『経済発展と財政金融』(共著:アジア経済研究所)、『スラムの経済学』(単著:東京大学出版会)、『人間の安全保障』(共著:東京大学出版会)など多数。2000年代からシンギュラリティに向かうグローバル化が進む国際社会の下での有機農業の重要性に関心をもち始めました。



### 江原浩昭氏

青年海外協力隊でザンビア赴任。その後、日本国際ボランティアセンター(JVC)スタッフとしてエチオピアで活動。JVCスタッフとして活動中に金子さんや川口さんの農法を知り、有機農業に関心を持つ。JVC退職後、実家の農家で有機農業を始める。ガバレ農場のガバレはエチオピアの言葉で「農民」という意味。現在、日本有機農業研究会理事 有機農業推進協会検査員も務める。

## 申し込み URL/QRコード

参加希望者は左のQRコードまたは以下のアドレスからフォームにアクセスし、必要箇所を入力してお申し込みください。▶

<https://forms.gle/S8S3WALfzp2FZY8m8>

※当日のZOOMアドレスは、申し込み後にメールにてご連絡いたします。



## OGAWA'Nとは? OGAWA'N Project コンセプト

この町には、美味しい農作物をつくる農家、応援してくれるお店、そして何より、召し上がってくださる消費者の皆さんがいます。収穫の喜びと恵みをみんなで分かち合い、ぐるっとつながる「おがわ型農業」が、自然と人が美しく循環する地域をつくっています。

小川町の田畑は、山々に囲まれた盆地の中にあり、平坦で広大な農地を抱える「産地」とよばれる地域とは大きく異なります。小川町の農業は、効率的な田畑に恵まれていないからこそ、農家の方々の「創意工夫」に溢れ、地域の人の協力の協力、そして野菜を食べてくれる皆さんによって守られています。

「おがわプロジェクト」は、そうした創意工夫やたゆまぬ努力を「生産者が宣言」し、「おがわ型農業」として見える化することで、頑張る農家さんを応援するプロジェクトです。